

北代縄文通信

平成 24 年度の復原建物修理工事が終わりました！

高床倉庫 1 棟の修理と竪穴住居 3 棟の部分修理を行いました。

高床倉庫 主柱や小舞、こまい 筭丸太など劣化部分の取替えや、平成 15 年度の取り替え後に劣化した、茅葺屋根の茅等を葺き替える修理工事を行いました。



修理前



屋根茅除去後



劣化材（主柱）取替・主柱基部養生



劣化材（小屋組材）取替・再結束



屋根茅葺（すぐり茅）



修理後

竪穴住居 屋根土内に浸透した雨水が住居内に染み出すことを防ぐため、第1・70号竪穴住居について、屋根末端付近から周囲の透水管までの地中に防湿シートを敷き、透水管周囲を砂利と取替える改良をしました。これにより、屋根土内部の浸透水を透水管に直接排水させることができ、広場自体の排水機能も高めることができました。

第13号竪穴住居（複製）では小屋根の煙出しから雨が吹込むのを防止するため、草壁を増設する改良を行いました。屋内の土間下にも防湿シートが敷設された本住居では、強風時に煙出しから吹き込んだ雨水が土間下に浸透せずに溜まってしまい、その湿気が屋内環境に与える悪影響が危惧されていました。増設した草壁が吹込みを防ぎ、屋内環境を良好に保ちます。



防湿シート敷設



透水管周囲補修



修理後（第1号住居）



修理後（第70号住居）



草壁増設後（第13号住居（複製））



同左

北代縄文広場ボランティアの会に新しい仲間が加わりました！

北代縄文広場は、富山市長岡地区の皆さんを中心とした 27 名のボランティアと 2 名の管理人に支えられています。本号と次号で、北代遺跡のガイド・土器づくり等の体験学習の指導に大活躍している新しい仲間を紹介します。

さかばやし あきら

坂林 彰(1945 年 生 ま れ)

北代縄文広場から約 1,300m 西側の「馬面踏切」の近く(呉羽苑)に住んでいます。生まれは高岡市ですが、呉羽には 40 数年住み続けており、十分郷里になっています。約 30 年前から、児童クラブのボランティアに参加し、子ども達の成長を楽しみながら、玩具づくり、ゲーム指導などを通して親子に接してきています。今度、友人の誘いもあって、この会に仲間入りできました。早速、野焼き、土器づくり、研修説明会、火起こし体験、縄文サマーフェスタ、研修旅行にも参加しました。



良き旧き時代の歴史、文化財にも触れて、少しずつ興味を持ち始めました。先輩諸兄に見習って、解説ボランティアに役立つよう努力していきたいと意気込んでいます。よろしくお願いします。

ずかわ やすあき

須川 泰昭(1943 年 生 ま れ)

いつも北代縄文広場の前を人類の歴史とロマンを感じながら通っていました。そしてそこには、いろんな人々がこの貴重な歴史遺産を伝え・保存する為に係わっておられる事を知りました。そんな折、ボランティアとしてここ縄文遺跡の保存・普及に携わることを薦められる機会を得、参加させていただくことになりました。



我々人類の祖先である縄文時代の人類の生活様式そして食糧の調理・加工・保存に大きな進化・役割をはたした土器の発明またそれに縄文模様を施した美術的感覚の高さ等々いろいろ勉強させて頂きたいと思えます。そして一人でも多くの方が縄文歴史に興味を持って頂ける様務めたいと思います。

たにはた くにはこ

谷畑 邦彦(1940 年 生 ま れ)

疎開で八尾と岐阜の県境近くで育ちました。山と山の間に川があり小さな集落です。野山を飛びまわり、大自然の中で、自由に、現在の世の中で考えられ

ないだが楽しかった。山では山菜やイチゴ類、食べられるか食べられないか、祖父や母に聞いて覚え、川では岩魚、ドジョウ、カジカ等ずいぶん手づかみした。70才越えた今でも、時々天気の良い日は良く行きます。年間30日以上命の洗濯に行きます。

先祖の縄文時代の人々がどんな生活をしていたのかもものすごく興味がある。そんな不便な生活も忘れつつある最近、人間の原点に戻って考える事も好きです。縄文の文化を少しでも覚え、来場される方々にロマンを与えたい。



なかじま と も き ち

中島 外茂吉(1937 年生まれ)

生まれは西砺波郡津澤町であります。敢えて町村合併前の町名で言うのは、この方が幼い頃の思い出が懐かしく浮かんでくるからであります。旧町名・地名には、歴史的・地形地勢的・自然環境・社会・文化的にも意味あいがあり、繋がりのあるものが多いと思います。昨今旧町名・地名を復活させようとの動きもあるのもこの様な事だからと思います。先日の小浜・三方五湖の旅行で一層その思いが感じられ、重みを知る旅となりました。私の生まれた町も今では砺波平野の中央で取り残された静かな いやむしろ寂しい町となりましたが過去には賑わった時代もあり、先人たちの努力と苦勞があります。そこには私にとってもいろいろの思い出が詰まった町でもあります。



まつだ み か こ

松田 美香子(1960 年生まれ)

初めて北代縄文広場を訪れた時、映画のようにタイムスリップして、四千年前の縄文時代に立っている感じがしました。

そして、説明を聞いていると、そこかしこに動いている縄文人が目にとびこんできました。そんな異次元な体験が出来る、ここ北代縄文広場で、私はガイドボランティアとして、次世代の子供達に伝えていきたい、体感してほしいと思って活動していきたいです。



北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第36号：編集・発行 富山県教育委員会 埋蔵文化財センター